第２回　持続可能性有識者委員会

■**日時：**2022 年 1 月 21 日（金） 9:30-11:30
■**場所：**Web 会議システムによるオンライン開催
■**出席者**（敬称略・五十音順）
＜持続可能性有識者委員会委員＞
委員長：伊藤元重
委員　：浅利美鈴、下田吉之、竹内純子、朝野和典、松原稔、山田美和、渡邉綱男

■**議題**
① 今後のスケジュール
② EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）及びカーボンフットプリントに関する取り組み（案)

■**議事概要：**
（１）今後のスケジュールについて
・ 協会より、今後のスケジュールについて資料説明の後、意見交換が行われた。
・ 委員による発言概要
✧ 生態系の保全・回復について、実効ある形にするためには会場整備計画が固まる前の早い段階で検討していくことが重要。

（２）EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）及びカーボンフットプリントに関する取り組み（案）について
・ 協会より、EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）及びカーボンフットプリントに関する取り組み（案）について資料説明の後、意見交換が行われた。
・ 委員による発言概要
EXPO 2025 グリーンビジョン全般に関して
✧ 万博は展示等により様々な技術を発信する場であるため、未来を見せる場であることが重要である。展示の場合、万博を通じて、来場者に対して持続可能な社会のための活動への参加を誘発し、活動を内外に広めていく役割が重要となる。
✧ 万博における脱炭素技術には「イベント全体をカーボンニュートラルにすること」と「2050 年カーボンニュートラルを実現する技術を展示・実証すること」の 2 つの意味があり、この 2 つを分けて考える必要がある。

- ✧ カーボンニュートラルについて 2 つの意義があるとすると、後者により大きな意義があると考えられ、社会変革に向けた新しい技術やビジネスモデルを世界と共有することが重要となる。
- ✧ 万博では国際的な見せ方が重要となる。カーボンニュートラル一本柱という見せ方が戦略的に本当によいのか検討した方がよい。カーボンニュートラル社会を実現するためのエネルギー供給技術・利用技術の普及に向けて、万博がどのような戦略を取るのかを見せることが重要となる。
- ✧ カーボンニュートラルのために必要な技術は国や地域によって異なるため、技術の展示や実装を通じて、どのように世界に見せていくかが課題となる。また、世界に発信するにあたっては、カーボンニュートラルの効果と費用の開示も重要となる。
- ✧ 環境と人権は密接な関係にある。CO2 排出量削減という数値的な部分と人の生活・未来との関わりをビジョンで示してほしい。
- ✧ 持続可能な未来社会を描く上でのグリーンビジョンにおいては、脱炭素・資源循環・自然共生という 3 つの視点をもって、どのようにアプローチするかが重要である。例えば、再生可能エネルギーの導入と自然共生・生態系との両立を図るという視点も大事にするというメッセージも重要となる。
- ✧ 愛知万博で持続可能性に興味を持ってキャリアを積んできたという声があったように、それこそ万博の意義であり、積極的に進めて欲しい。

<u>カーボンフットプリント（CFP）に関して</u>

- ✧ CFP 算定の範囲については、スコープ 3（バリューチェーンの上流・下流）も含めて考えるという視点は持った方がよい。プラスチック対策や再生可能な資源に関する議論と併せて、調達基準と一体化させて考えていくことが重要である。
- ✧ 来場者による移動・モビリティに係る部分の負荷が大きい点については、万博に関わる部分はある程度バウンダリに含めて算定する必要があるのではないか。
- ✧ 国際航空については、海外からの来場が万博の目的そのものであり、国内観光の誘発も意義の 1 つであることも踏まえ、バウンダリに含めて算定すべきである。
- ✧ CFP 算定結果では来場者に係るボリュームが大きいため、その内訳を示すことが重要である。
- ✧ 博覧会としては、もし 2050 年に万博が開催されていれば、どのような技術でカーボンフットプリントを解消できるか、対外的に情報発信することも重要である。

- ✧ カーボンフットプリントの試算値を見ると、運営よりも建物やインフラ等の施設からの CO2 排出量が多く、施設を半年でなくしてしまうことの影響は大きい。これらの施設をできるだけリユースしていくことも持続可能性の中で検討してほしい。
- ✧ 金融が企業と対話・エンゲージメントしていく上で注目しているのは、「目標設定」、「カーボンフットプリントの算定」、「野心的技術の獲得」の 3 点である。カーボンフットプリントの枠組みを考える場合、金融としてありたい形はバリューチェーンを含めたスコープ 3 の議論となるが、単にカーボンニュートラル実現を目的とするのではなく、その先にある循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現にどう繋げていくかをセットで考える必要がある。エネルギー全体をカーボンニュートラル、野心的にはカーボンマイナスにしていくために何ができるかを考えることも重要である。バウンダリを広く設定することは世界的な考え方であるが、どの枠組みであってもアカウンタビリティとレスポンシビリティを果たしていくことが重要である。
- ✧ カーボンニュートラルを目標に掲げると、算定方法が議論の中心となってしまいがちだが、情報開示していくことが重要である。万博開催に因果関係があることも織り込んで説明することが重要である。
- ✧ カーボンオフセットの方法については、消費者の行動変容まで組み込めると素晴らしい。環境家計簿等のツールや DX 等の情報技術を活用して可視化すると、万博における良い取り組みになるのではないか。
- ✧ カーボンニュートラルの「プロモート」という考え方は非常に重要である。クレジットの対応策として示されている 3 つの中でも特に「クレジット創出支援」が重要だと考える。万博の会場内だけでなく、日本・関西全体で取り組むという意識を高めるためのプロモーションを行い、取り組むことが重要なのではないか。

・ EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）及びカーボンフットプリントに関する取り組み（案）については、次回の委員会でも議題として取り上げることとした。

以上